

## 公益社団法人日本看護科学学会 2020年12月社員総会 議事録

日 時：2020年12月11日（金）16：00～18：30

場 所：WEB開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

総社員数：312名

出席社員数：289名（WEB出席133名、委任状138名、議決権行使18名、）

WEB開催出席社員：吾郷美奈恵、朝倉京子、浅野みどり、東ますみ、畦地博子、吾妻知美、有森直子、安藤詳子、飯田苗恵、飯野京子、飯村直子、五十嵐歩、池崎澄江、石井豊恵、石垣和子、市村久美子、伊東美佐江、井村真澄、岩脇陽子、ウィリアムソン彰子、上野まり、瓜生浩子、江藤宏美、遠藤俊子、大川宣容、大栗麻由美、大島弓子、太田喜久子、太田勝正、大野かおり、岡美智代、岡崎美智子、岡田淳子、折山早苗、掛田崇寛、片岡純、片岡弥恵子、片山はるみ、勝山貴美子、加藤真由美、加納尚美、河原田まり子、川村三希子、菊地ひろみ、北素子、北岡和代、久保田聡美、黒田裕子、河野あゆみ、小林淳子、近藤麻理、近藤浩子、定方美恵子、佐藤紀子、澤田いづみ、島内節、白水真理子、杉浦太一、鈴木久美、鈴木幸子、瀬戸奈津子、征矢野あや子、高井ゆかり、高橋眞理、多喜田恵子、竹之内沙弥香、武村雪絵、田中美恵子、谷口初美、筒井真優美、都筑千景、鄭佳紅、長江弘子、長戸和子、奈良間美保、野口眞弓、野間口千香穂、橋口暢子、簗持知恵子、日高艶子、百田武司、平松知子、廣瀬規代美、藤田佐和、藤田君支、藤本幸三、古瀬みどり、古田加代子、法橋尚宏、本庄恵子、正木治恵、眞嶋朋子、増島麻里子、松井優子、松浦和代、松浦賢長、松田宣子、水野道代、水戸優子、箕浦哲嗣、宮下美香、宮林郁子、三吉友美子、村井文江、村田節子、村中陽子、森明子、森恵美、薬師神裕子、矢野理香、山内豊明、山田覚、吉岡さおり、吉田澄恵、吉田千文、吉田俊子、若村智子、綿貫成明（以上118名・50音順）

出席理事・監事：真田弘美（理事長）、須釜淳子（副理事長）

（うち15人社員）池田真理、石橋みゆき、岡谷恵子、亀井智子、鈴木みづえ、田中マキ子、仲上豪二郎、永田智子、深堀裕樹、堀内成子、宮下光令、安酸史子、南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上50音順）

議 長：真田弘美（理事長）

議事録作成：青木裕見（聖路加国際大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

### I. 開 会

開会時、WEB出席者数75名（うち理事・監事15名）、有効委任状・議決権行使156名、総計231名であり、日本看護科学学会定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会2020年12月社員総会を開催する旨が伝えられた。司会は須釜淳子副理事長、書記は青木裕見（聖路加国際大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行なわれた。

### II. 理事長挨拶

真田弘美理事長より、以下の挨拶があった。

COVID-19 第3波を予想して早い時期からオンライン学会に切り替え、ベストな状況で素晴らしい第40回学術集会を開催していただいた萱間学術集会会長に心より御礼申し上げる。このパンデミックの状況の中、フロントラインで国民の命を守って下さっている保健師・看護師の皆様衷心より御礼を申し上げますとともに最大の敬意を表したい。会員の皆様におかれては、この時期は臨床実習の変更やデータが取れない学生の論文内容の変更、さらに帰省の心配など大きな課題を抱えての年越しとなる。アカデミアが殆どを占める本学会においては看護科学学会という名のもとに研究を推進し、将来に向けての歩みを止めないよう努力してきたつもりである。当社員総会ではその報告と定款などの審議が議題となる。初めてのWEB（Zoom）での社員総会であるが万全を期して専門業者に委託し、リハーサルも行い臨んでいるが途中不備が生じたらお許しいただきたい。

今回の報告は若手研究者の育成に焦点をあてて、昨年度作成した若手研究者活性化に向けての取り組みの報告書に基づき、学会誌への投稿規程の変更など、多くの取り組みに着手してきた。今期はその成果が徐々に出てきており、担当理事と委員にこの場を借りて御礼申し上げたい。さらに、若手研究者への海外での研究活動助成についての提案もあり、このパンデミックの時期に海外に出られるのかといった心配も多いと思うが、将来に夢と希望をもって進んでほしいと考え、若手に助成を行っていきたいと考えており、ぜひ、ご賛同いただきたい。併せて、こういった状況ではあるが、看護研究が推進できるようアドホック委員会としてCOVID-19看護研究対策委員会を設置した。この委員会活動の一つに実態調査があり、本総会の最後に担当委員長の須釜副理事長から報告いただく。本日の審議事項には、若手研究者への支援に関する定款変更、令和3年度の予算に関することも予定しており、長丁場になると思うがご協力をお願いしたい。

### III. 第40回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

萱間真美学術集会会長より、以下の挨拶があった。

明日より2日間ライブプログラムを実施する。本日現在で学生547名を含む4,179名に参加登録をいただいている。ライブプログラムは学術集会特設サイトから演題発表を予めご覧いただき、ライブでディスカッションを行う。ぜひ、特設サイトでご覧のうえライブに参加いただきたい。幕間にもリラックスできるプログラムを準備しており、楽しんでいただきたいと思います。特設サイトでは講演は5つ、シンポジウムは7つ、JANAとの共同セミナーが視聴可能である。交流集会は49題あり、一般演題はEnglishセッションを含む1,000題以上をご覧いただける。ランチョンセミナーは8社、浅田次郎氏の市民公開講座も大変好評をいただいている。また、JANS40大会賞にもぜひ参加いただき、「いいね」を押していただきたい。今回の学術集会は新しい形であり、一生懸命に準備をしているが予測を超えることもあるかもしれない。参加いただく皆様の力を借りて、共に乗り越えてこの学術集会を楽しんでいただきたいと思います。

### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、真田弘美理事長が議長に選出された。議事録署名人は、議長から武村雪絵氏（東京大学）と綿貫成明氏（国立看護大学校）の2名が推薦され、承認された。

### V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

#### 1) 総務報告〈永田智子理事〉

議案書（P.4）に基づき、以下の報告があった。

2020年10月31日現在、正会員9,877名、名誉会員17名、賛助会員4件、会員総数9,898名で

ある。議案書 P.4 の中段に記載の表は地域別会員数であり、下段の棒グラフは正会員数の推移で増加傾向である。

## 2) 理事会報告〈永田智子理事〉

議案書 (P.5-8) に基づき、以下の報告があった。今年度はすべての理事会を WEB 開催とした。2020 年 5 月 22 日から 12 月 11 日までに 5 回の理事会を開催した。

## 3) 委員会活動報告

議案書 (P.12-20) に基づき、委員会活動報告があった。

### (1) 和文誌編集委員会〈宮下光令理事〉

日本看護科学会誌 40 巻をオンラインで発刊した。2020 年 10 月 23 日現在で 161 論文の投稿があった。過去最高の投稿数になると見込んでいる。投稿規程における著者要件が変更され、「段階的に共著者の会員要件について検討していく。当面、筆頭著者は会員である必要があるが、共著者は非会員でもよく、採択後に掲載料を徴収する」との変更を行った。併せて迅速査読についても導入した。これらに合わせて 11 月 1 日から新しい投稿規程にて運用している。現在までに 7 件の迅速査読の申請があった。第 40 回学術集会にて交流集会「JANS 和文誌に修士論文・博士論文を載せよう！」を企画しており、投稿規程の変更も周知の予定である。

### (2) 英文誌編集委員会〈堀内成子理事〉

2020 年 1 月以降の投稿論文数は 612 編であった (2020 年 11 月 15 日現在)。昨年と同時期と比べ約 200 件の増加。COVID-19 の影響か、他の雑誌も投稿数が増えているのが世界的な傾向である。1 回目の査読の戻りは平均 35 日であった。昨年度は 72 日であり、査読委員はじめ、編集委員の努力の賜物と言える。全体では 6~8%の採択率で、日本人に限定しての採択率は 25%前後である。今年から始めた Fast Track Review (迅速査読) は 16 件の申請があった。impact factor は、0.806 であり、さらに上げていきたい。SR (システムティックレビュー) を含めた総説論文をぜひ投稿してもらいたい。年 1 回の JJNS セミナーとして、Improving Your Success at Publishing in English 2020 を WEB 開催する。現在のところ、232 名の申込みがあり、12 月中下旬より配信の予定。

### (3) 表彰論文選考委員会〈亀井智子理事〉

- ・表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 17 編 (和文 9 編・英文 8 編) の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 8 編 (和文 5 編英文 3 編) を審査リストとして作成した。それをもとに、8 月に全代議員、役員計 313 名にメールにて採点を依頼した。10 月 9 日までに返信された 205 件について評価点の集計を行った。回収率 65.5%(205/313)。集計結果に基づき最終選考を行い、優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。
- ・他組織からの表彰候補者の推薦として、山上の光賞、日本学術振興会賞および育志賞、ヘルシーソサエティ賞に応募し進捗があった。山上の光賞について、川村佐和子先生が第 6 回山上の光賞の 80 歳以上の部で受賞された。日本学術振興会賞と育志賞は選外であった。ヘルシーソサエティ賞について真田弘美理事長が第 16 回ヘルシーソサエティ賞 (パイオニア部門) を受賞された。
- ・学術集会演題表彰制度の検討について、第 41 回学術集会から適用する演題表彰制度について、定款施行細則改定案と、規程案の作成を行い、授与する賞の種類、選考方法、手順などの事項を検討した。賞は「優秀演題発表賞」「優秀ポスター発表賞」「若手優秀演題発表賞」「優秀抄録賞」とし、選考は 2 段階で行う方法とした。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシ

システムを利用して、査読者2名以上による採点を行い、上位10名を選考する。第2段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会が主に採点をして最終選考し、閉会式などで表彰する方法とした。演題登録システムに関して3社から企画提案と見積書を収集し、業者を選定した。

#### (4) 研究・学術推進委員会〈深堀浩樹理事〉

- ・委員会としての活動として、本年10月までに8回の委員会を開催した。
- ・「大型研究費の獲得を目指した支援」に関する活動を開始し、日本学術振興会の「学術変革領域研究(A)」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者の募集を行った。3件の応募があり東京大学の山本則子先生が選定され、『『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出』をテーマに、「学術変革領域研究(A)」の令和3(2021)年度の公募に挑戦する方針とした。この研究の「計画研究代表者」の募集には27名の応募があり、12名が選定され、委員会と連絡を取り合い申請の準備を進めている。
- ・第16回JANSセミナー「若手からシニアまで、看護学研究者全員で挑むイノベーション：大型研究マネジメントと研究費の継続的獲得のヒントを学ぼう」をWEB開催し(2020年7月6日～10月2日)、437名(会員限定)の参加があった。
- ・第40回学術集会の交流集会において「看護学研究者がよりインパクトのある大規模な研究に挑戦していくために」を企画した。

#### (5) 看護ケア開発・標準化委員会〈須釜淳子副理事長〉

- ・「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」について昨年度SR(Systematic Review)を終えており、今年度は草案に向けて作業をした。現時点で草案の修正版ができています。今後発刊にむけ準備していく。
- ・新たなケアガイドラインとして、「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」及び「高齢者排尿誘導ガイドライン」を進めている。
- ・日本看護系学会協議会ワークショップにて活動状況を報告した。またJANS40シンポジウムにおいて上述のガイドラインについて進捗の報告をする。

#### (6) 若手研究者活動推進委員会〈仲上豪二朗理事〉

- ・ホームページやメーリングリストによって情報発信を行っている。当委員会メンバーである新福委員が所属する日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。JANS40での英語シンポジウム「Next-generation knowledge development approach through team science」を企画した。
- ・JANS40若手ネットワークサロンのオンライン実施に向け準備した。
- ・2月にJANSセミナー「若手研究者のワークエンゲージメントー研究ってやっぱり面白い！ー」を開催し、会場・WEB合わせて340名の参加があった。
- ・COVID-19がJANS会員の教育・研究活動に与えた影響の調査を実施した。

#### (7) 国際活動推進委員会\*世界看護科学学会を含む〈池田真理理事〉

- ・JANSホームページ内の異文化看護データベースを見直し、データベースのあり方を再検討した。
- ・「国際学会オーラルプレゼンテーションへの第一歩」について当初4月開催予定であったが、COVID-19のため見送り、JANS40にてシンポジウムとして実施する。なおJANS40では英語セッションが43件と昨年の5件より大幅に増えている。
- ・世界看護科学学会(WANS)の事務局として、任期終了となった理事長の選出についての業務を

行い、6月に片田理事長が再選された。また WANS 理事会を WEB (Zoom) で実施した。

#### (8) 看護学学術用語検討委員会〈安酸史子理事〉

セルフケアの概念の再定義の作業を進めている。臨床現場での使われ方に関するヒアリングについてコロナ禍のため Zoom でフォーカスグループインタビューを行うこととした。現在日程の調整中である。

#### (9) 社会貢献委員会〈鈴木みずえ理事〉

JANS39 で開催した「ナーシング・サイエンス・カフェ」の講演内容を録画し、学会ホームページ (YouTube) で公開した。JANS40 では市民公開講座として浅田次郎氏にご講演いただいている。現在 1303 名の登録となっている。

#### (10) 広報委員会〈田中マキ子理事〉

- ・定期的に学会ホームページの更新を実施している。
- ・学術集会関連の広報活動として、JANS39 の写真をホームページに公開した。また、学術集会や総会時に使用するために、バナースタンドを作成した。JANS40 市民公開講座のフライヤー作成を行い配布した。併せて関係先にプレスリリースも配布し周知に努めた。
- ・JANS40 にて交流集会を開催する。
- ・「看護研究の玉手箱」に掲載する内容を検討した。
- ・英語版ホームページのリニューアルの検討を行い、改変方針について理事会の承認を得た。

#### (11) 看護倫理検討委員会〈樋之津淳子理事〉

看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集を行っている。現時点で幸いなことに問題はない。COVID-19 の報告の中で倫理的な課題がないか情報収集中である。

#### (12) 利益相反委員会〈鈴木みずえ理事〉

和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。JANS40 会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを計画している。

#### (13) 研究倫理審査委員会〈岡谷恵子理事〉

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。1 件の申請があり、簡易審査を行った。

#### (14) 災害看護支援委員会〈永田智子理事〉

- ・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしているが今期は該当なし。
- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討することとしているが、今期は該当なし。
- ・防災学術連携シンポジウムを遠隔傍聴し情報収集を行った。
- ・JANS40 にて交流集会「COVID-19 の経験を次の健康危機に活かす：看護のエビデンス構築に向けて」を開催する。

#### (15) 若手研究者助成準備委員会〈鈴木みずえ理事〉

- ・2021 年度からの実施を計画し、準備委員会を立ち上げた。新たな事業となるため、規程類の作成を行い、「若手研究者助成規程」「若手研究者助成選考細則」「若手研究者助成選考申し合わせ」「若手研究者助成資金細則」の設置を進めた。
- ・事業の実施には内閣府の公益認定等委員会に変更認定を申請し承認を得る必要があり、11 月の第 4 回理事会で承認をいただき申請書の作成を進めている。通常、認定までには約 3 ヶ月程度かか

ることが予想されており、今後電子申請を予定している。

#### **(16)会則等委員会 2020年6月新設〈石橋みゆき理事〉**

定款や各種規則等の見直しを通して、公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため本年6月に設置された。構成メンバーは理事4名、社員1名、アドバイザーに顧問弁護士と司法書士を依頼している。これまでに2回委員会を開催し、若手研究者助成の実施に関する定款の見直しに入った。今後も丁寧な議論をしていく。

#### **(17) COVID-19 看護研究等対策委員会 2020年6月新設（アドホック委員会）〈須釜淳子副理事長〉**

7月に日本看護科学学会の会員を対象に緊急事態宣言期間中の活動に関するアンケート調査をオンラインで行い、結果を学会ホームページに速報として公開した。結果の詳細についての報告は、本日総会終了時に行う。現在は調査結果を解析し論文投稿を準備している。

#### **(18)総務委員会（永田智子理事）**

入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。事務所職員と緊密に連携をとり、特にCOVID-19対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。

#### **(19)他機関との連携活動**

##### **①日本看護系学会協議会（JANA）〈石橋みゆき理事〉**

総会に出席した。

##### **②看護系学会等社会保険連合（看保連）〈永田智子理事〉**

介護報酬体系の在り方に関する検討委員会に参加した。看保連2020年度研究助成への応募に5件の申請があり、審査して1件を承認した。

##### **③日本学術会議 〈石橋みゆき理事〉**

日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

#### **(20)選挙管理委員会〈永田智子理事〉**

9月28日に選挙管理委員会を開催した。理事候補者選挙準備を行っている。2月に電子投票を受付し、3月1日に開票の予定である。

**【質疑】なし**

## **VI. 審議事項**

第1号議案の承認について、2020年度事業計画変更（案）と補正予算（案）議案書（P.22-25）に基づき、説明と審議がなされた。

### **・2020年度事業計画変更案**

#### **1.第40回学術集会の開催方法の変更**

東京国際フォーラムで開催を予定していたが、オンラインによるWEB開催に変更した。

#### **2.委員会の新設**

2020年6月以降に下記の委員会を新設した。

- ・会則等委員会
- ・COVID-19 看護研究等対策委員会（期間限定）
- ・若手研究者助成準備委員会

### 3.英語ホームページのリニューアル

日本語版ホームページと同様の様式で見やすく、検索もしやすいホームページにリニューアルし、更新頻度も多くしてサイトの充実を図る。今年度中にリニューアルを行う。担当は広報委員会が中心となり、理事会、事務所の協力により、2021年2～3月頃の公開を目指す。

#### ・2020年度収支補正予算案

学術集会収入について開催形態変更より減収が見込まれるが、これに合わせて会場費などの支出が軽減されること、新設委員会の設置、英語版ホームページのリニューアルにより支出が増えるため、2020年度予算の補正を行う。

第1号議案について真田弘美理事長より質問や意見が促されたが、特にはなく過半数の承認で原案通り可決された。

第2号議案 定款（第3条）変更（案）の承認について、議案書（P.26）に基づき石橋みゆき理事より説明いただき審議がなされた。

定款第3条④として、「若手研究者の育成及び支援」を追加し、以下の番号を順送りに変更する。

2. 前項各号の事業は、日本全国及び海外において行うものとする とし、「及び海外」の文言を追加する。

なお、本変更は2021年度から実施を予定している「若手研究者助成」の実施に関しての変更であり、効力発生日は「変更認定申請に対する行政庁の認定日」とする。

第2号議案について真田弘美理事長より質問や意見が促されたが特になく、社員総数の2/3を超える承認で原案通り可決された。

第3号議案の承認について、2021年度事業計画（案）議案書（P.27-31）に基づき、説明と審議がなされた。

#### (1) 学術集会〈永田智子理事〉

第41回、第42回の日本看護科学学会学術集会の準備について説明があった（会長と日時、場所）。

#### (2) 和文誌編集委員会〈宮下光令理事〉

- ・日本看護科学会誌第41巻を発行する。
- ・投稿規程・執筆要領等の見直しを図る。また、査読期間の短縮もはかっている。
- ・修士・博士論文の投稿を推進するための教育プログラムを交流集会で開催する。

#### (3) 英文誌編集委員会〈堀内成子理事〉

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol. 18 を発行する。
- ・JJNS セミナー2021 を開催する。
- ・日本人の投稿数130編を目指す。
- ・インパクトファクター1.0以上になるよう努力する。
- ・査読期間もこのままファーストトラックを維持していく。
- ・Wiley との契約更新内容を検討し、時代にあった形の出版形態を目指す。

#### (4) 表彰論文選考委員会〈亀井智子理事〉

- ・表彰論文の選考を行い公表する。
- ・学術集会における演題表彰制度のシステムを構築し、第41回学術集会において表彰演題の選考を行い公表する。

#### (5) 研究・学術推進委員会〈深堀浩樹理事〉

- ・大型研究の推進に関する事業に取り組む（学術領域変革研究（A）への申請および申請後の対応等）。
- ・JANSセミナーの企画・開催を行う。学術集会にて委員会の活動を報告する。

#### (6) 看護ケア開発・標準化委員会〈須釜淳子副理事長〉

- ・「摂食嚥下時の誤嚥残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」の草案を完成し、外部評価を受けた後、公開する。
- ・新規看護ケアガイドライン作成チームを立ちあげ、CQ（Clinical Question）作成ならびにSR（Systematic Review）を行う。

#### (7) 若手研究者活動推進委員会〈仲上豪二郎理事〉

- ・若手ネットワークのオンライン化を推進し、若手研究者活動を活性化する。
- ・オンラインセミナーを開催し若手会員の増加に努める。
- ・COVID-19 関連の研究を国内外に発信していく。
- ・日本心理学会との連携強化のための活動を行う。

#### (8) 国際活動推進委員会〈池田真理理事〉

- ・国際学会での研究発表の促進施策として、世界看護科学学会（WANS）および東アジア看護研究者フォーラム（EAFONS）等での発表促進を図るためのセミナーを開催する。WANS事務局として2022年度に開催する第7回WANS学術集会（予定）の開催を支援する。
- ・国外研究活動の推進として、第41回学術集会で委員会主催のセミナーを開催する。JANSホームページ内「異文化看護データベース」を継続していく。

#### (9) 看護学学術用語検討委員会〈安酸史子理事〉

グループインタビューの結果をふまえてセルフケアの定義を改訂し、一連のシステム構築のための試行をもとに、今後の学術用語の継続的な維持管理システムの構築を行う。また、維持管理システムに則り、既存の学術用語の改定と追加用語の計画立案を行う。

#### (10) 社会貢献委員会〈鈴木みずえ理事〉

- ・第41回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。
- ・第41回学術集会で「市民公開講座」を開催する。

#### (11) 広報委員会〈田中マキ子理事〉

- ・学会ホームページ（日本語・英語）の更新・管理・評価と改善を行う他、他委員会との連携による学会活動の広報活動を展開する。
- ・WANSに関連した広報について検討する。
- ・学術集会に関する広報活動を行う。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」において、表彰論文の紹介を行う。

#### (12) 看護倫理検討委員会〈樋之津淳子理事〉

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する論理的社会的社会事象に対する情報収集と対応策について検討を行う。



### **(13) 利益相反委員会〈鈴木みずえ理事〉**

看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。また、研究論理の遵守と研究活動の不正防止に関する普及活動を行う。

### **(14) 研究倫理審査委員会〈岡谷恵子理事〉**

研究倫理の申請に対して、メール審査、委員会招集審査のいずれかを行う。併せて研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

### **(15) 災害看護支援委員会〈永田智子理事〉**

看護系学会として災害時活動内容について、日本看護系学会協議会の災害看護連携会議等に参加して情報収集を行い、災害時の活動内容について検討し、必要時には情報発信等を行う。

### **(16) 若手研究者助成選考委員会〈鈴木みずえ理事〉**

2021年度から募集を開始する予定の若手研究者助成の申請をとりまとめ、対象事業の選考を行い理事会に提出する。

### **(17) 会則等委員会〈石橋みゆき理事〉**

- ・定款の一部改正と定款改正に伴う会則等の変更の必要性を検討する。
- ・新規事業立ち上げに伴い規則等が設置されるため、定款との整合性がとれるように委員会で検討し、来年6月の総会で方向性を示し、12月の総会で審議できるよう準備する。
- ・学会総会での決議の必要性についての検討を行う。
- ・規則類全般について必要な場合は見直し等の検討を行う。

### **(18) COVID-19 看護研究等対策委員会〈須釜淳子副理事長〉**

「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」の調査結果をまとめ第41回学術集会で発表し、かつ国際または国内の学術雑誌にも投稿する。

### **(19) 総務委員会〈永田智子理事〉**

- ・入会審査を行う。
- ・会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービスの課題を把握し改善に努める。
- ・安定した事務所運営が可能な職員体制確立のため、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。
- ・各職員が現在の所掌業務に関するマニュアルを整備・見直しを行うよう促し、より一層の事務所機能の安定化、効率化を図り、職員のモチベーションの維持・向上に努める。
- ・事務所と委員会の連携が円滑にできるように働きかける。

### **(20) 選挙管理委員会〈永田智子理事〉**

理事候補者選挙結果より理事候補者名簿を作成し理事会へ提出する。また、次期選挙管理委員会への申し送り事項を整理する。

### **(21) 他機関との連携〈石橋みゆき理事〉**

日本看護系学会協議会、日本学術会議、看護系学会等社会保険連合と連携していく。

なお、議長から以下の追加報告があった。

### **追加報告〈真田弘美理事長〉**

日本心理学会、日本薬理学会など、他学会より一緒にセミナーを開催しないかという嬉しい問い合わせ

わせが来るようになっている。共同研究やシンポジウムの依頼をいただくようになっている。引き続き共同しながら進めて行きたい。

**第3号議案**について真田弘美理事長より質問や意見が促されたが、特にはなく過半数の承認で原案通り可決された。

**第4号議案 2021年度予算(案)の承認について 2021年度収支予算書(案)(P.32-37)に基づき石橋みゆき理事より説明がなされ、審議が行われた。**

会費収入について会員数を9,900名、新入会者・再入会者750名、資格喪失者500名と見積もり、合計10,150名分を収入とし賛助会員は、250千円、計101,750千円を計上している。学会誌収入が書籍販売分と著作権を合わせて1,494千円、セミナー収入が2回のJANSセミナーと、1回のJJNSセミナーを合わせて3,065千円、学術集会収入が次年度は名古屋での開催でWEB開催の今年度よりも15,698千円大きく54,315千円で、事業活動収入合計は160,625千円である。

事業活動支出は事業費支出として学会誌発行費支出が和文誌編集費支出8,640千円、英文誌編集費支出18,800千円で計27,440千円、編集活動費は和文誌と英文誌の委員会関連で1,255千円、看護学術振興費支出は各委員会関連の予算で6,695千円、研究学術活動支援費支出は表彰とセミナー等に関する予算で7,332千円、社会的活動費支出は社会貢献委員会と広報委員会の公益目的事業分の予算で1,510千円の計上となっている。

学術集会費支出は名古屋でのJANS41の開催が51,378千円、翌年度のJANS42の準備に2,816千円の予算で、計54,194千円である。

管理費は59,786千円見込んでおり、事務所職員(正職員5名、パート2名)雇用に関する給料や社会保険料、事務所の賃料やOA機器のリース料、会計士や弁護士への委託料、消費税などが含まれる。また、総務委員会や利益相反委員会、選挙費用など公益目的事業とはならない費用942千円も管理費に計上している。

その他の支出は未納による会員資格喪失分で2,200千円を見込んでおり、事業活動支出合計は160,412千円、前述の事業活動収入合計160,625千円から事業活動支出合計160,412千円を差し引いた事業活動収支差額は213千円となり、事業活動の収支はプラス予算となっている。

投資活動収支の部は各種積立金を取り崩して資金として充てる投資活動収入が選挙積立の取崩し、退職給付引当資産の取崩しに加えて2021年度から実施を予定している若手研究者助成資金の取崩しが3,000千円あるため、投資活動収入合計は3,393千円、目的のある積立を行う投資活動支出として選挙預金への積立て、退職給付引当資産への積立て等で投資活動支出合計が2,060千円のため、投資活動収支差額合計は1,333千円となっている。

財務活動収支の部は複合機のリース債務が支出にあるのみので、財務活動収支差額は527千円のマイナスとなった。予備費は前年度同様1,000千円であり、事業活動収支差額213千円に投資活動収支差額1,333千円を加算、財務活動収支差額527千円、予備費1,000千円を除いた19千円が当期収支差額となる収支予算であることの説明があった。

P.36-P.37は収支予算の内容を公益法人会計基準に基づく正味財産増減計算書の様式にしたものであり、公益目的事業、収益事業等、法人会計の3つの区分で、正会員からの会費収入101,500千円は公益目的事業と法人会計に50%ずつ配分され理想的であること、公益目的事業会計は27,222,589円のマイナスになっており、収益事業での7,169,102円のプラスが生じているが、JANSは公益社団法人のため、プラスになった分を一定の割合(計算式あり)でマイナスの公益目

的事業に振り替えることが可能なため、税金は予算上ではすべての法人が納付する法人住民税 7 万円程度と見込まれ、最終的に正味財産としては 1,095,887 円が増えるとの説明があった。

第 4 号議案について真田弘美理事長より質問や意見が促されたが特になく、過半数の承認で原案通り可決された。

第 5 号議案 真田弘美理事長より第 43 回日本看護科学学会学術集会会長は山口県立大学 田中マキ子先生との提案がなされ、会場より承認を得た。

## Ⅶ. 「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」報告

資料：結果速報 2020.09.11（WEB ページを参照）

### 1) 概要〈須釜淳子副理事長（委員長）〉

- ・メンバーは須釜淳子副理事長（委員長）、深堀浩樹（理事）委員、仲上豪二郎理事（委員）、新福洋子委員、吉永尚紀委員、であった。
- ・目的は新型コロナウイルス感染症拡大に関する第一波における会員の活動の動態を調査し、必要とする看護研究等の支援を JANS としてどのように構築するかを提言することであった。
- ・対象は回答のあった JANS の会員 1,532 名であり、回収率は 17%であった。
- ・オンラインで横断調査を行った。
- ・調査項目はコロナ禍における活動状況、効果的な支援方法、教員の仕事時間のエフォート、今年度の科研費の遂行状況、基本属性であった。
- ・調査期間は 2020 年 7 月 1 日から 8 月 10 日で、宮崎大学の倫理審査の承認を得て実施した。
- ・結果は 9 月 11 日に学会ホームページに速報を掲載した。

### 2) 調査報告 1 〈吉永尚紀委員〉

- ・対象者は 36 歳～65 歳が 86%で、女性が 89%であった。65%が特別警戒都道府県からの回答であった。大学教員が 83%で、約半数は博士号取得者であった。
- ・研究活動に対する意欲は 48%が減ったと回答し、研究活動に費やす時間が減ったと回答したのは 65%であった。
- ・海外の調査結果（リサーチゲート）によると海外では厳しいロックダウンが行われた影響か実験や教育活動が減ったと回答したのが過半数を占めていたが、自宅でできる論文検索や論文執筆にかかる時間は増えたという回答が多かった。
- ・JANS の調査結果では 70%が教育活動に費やす時間が増えたと回答し、コロナ禍でも教育活動を止めずに活動したためと考えられる。海外の調査結果とは異なり、自宅でできる論文検索や論文執筆にかかる時間は減ったという回答が多かった。70%を超える人が実験研究の実施が減ったと回答していた。
- ・研究活動の阻害について 82%が活動を阻害されたと回答し、阻害要因として、移動手手段の確保や出張の困難、研究対象者との対面接触の困難などがあがった。
- ・89%が研究活動を続けることに不安を感じ、80%は相談相手がいないと回答していた。
- ・44%が科研費を獲得しており、89%がコロナ禍で科研の研究遂行が阻害されているとの回答であった。なお、半数は次年度の新規申請が阻害されると回答した。
- ・肯定的な変化としては、遠隔による学会・講習会のメリットの体感、IT を活用したコミュニケ

ーシヨンの円滑化、新たな生活リズムの構築などがあがった。

- ・ JANS に求める支援としては、オンライン研修の充実、コロナ禍における教育方法や研究方法に関するセミナーなどがあがった。
- ・ 若手（45 歳以下）とシニアの違いの詳細については、JANS40 特設ページにて若手ネットワークサロン企画としてレポートを掲載している。若手とシニアで大きな違いは認められなかった。
- ・ 回答率が 17%と低く、回答者の約半数が博士号の取得者が多く、結果の一般化は一定の限界を有する。

### 3) 調査報告 2 〈仲上豪二郎理事（委員）〉

- ・ 常勤の看護系大学教員 1023 名への COVID-19 の影響を分析した。
- ・ 91.1%が女性で、36～65 歳が大半を占めていた。私立大学が 54%であった。
- ・ エフォートの分配は、教授では管理運営業務に、准教授・講師では教育に、助教・助手は研究に多くの時間を割いていた。
- ・ 研究時間が減ったと回答したのは、教授は 76.4%、准教授・講師は 73.2%、助教・助手は 58.6%であった。
- ・ 科研費を持っている人は持っていない人に比べてより研究時間が減っていた。
- ・ 共同研究の停滞は教授、准教授・講師で強く感じていた。教授では、管理運営活動にかける時間、大学院生との共同研究の停滞、感染症に恐怖を呈する学生教員への支援にかける時間の増加を感じていた。准教授では育児時間の増加や大学院生との共同研究の停滞、在宅勤務による研究の効率の低下、臨床実践にかける時間の増加、家庭内の葛藤を感じていた。助教・助手では、育児時間の増加、在宅勤務による研究の効率の低下を感じていた。
- ・ JANS に求める支援は、オンラインセミナーや研修の充実、会員調査データのオープンソース化、コロナ禍を含む非常時に活用可能な研究方法に関する研修、遠隔での研究が効果的に行われた好事例、研究マネジメントの視点の共有、オンラインで会員同士が交流できる機会などがあがり、これらについて JANS として対応していきたい。
- ・ まとめとして、COVID-19 が会員に与えた影響は甚大で、コロナ禍における新たな教育様式にかけるエフォートの増加が研究時間の減少につながっている。JANS に求める支援と JANS のアクションとして、オンラインセミナーや研修の充実やコロナ禍を含む非常時に活用可能な研究方法に関する研修の提供などに取り組んでいく予定である。COVID-19 が与える影響を最小限にし、新たな研究推進を支援するための重要な基礎資料として今回の調査が活用できると考えている。本結果は国際誌に投稿する予定である。

#### 【コメント】

##### 〈堀内成子理事〉

回答者の約半数が博士の学位を持っているということに驚いた。過去 2～30 年の間に博士後期課程を修了される若い方々が多く出てきていると感じた。英文誌が始めている **Fast Track Review**(迅速査読)には学位申請に必要な **requirement** としての論文、または修了してから出す論文をぜひ投稿していただきたい。おそらく共同研究を組んでいると思われるのでシニアの先生方と組んだチームでの研究が看護の中でも定着してきていると思うので、ぜひ多くの投稿をお待ちしている。論文の最後に科研費 **JSPS** が記載してあると海外への発信にもなり、国費を使った研究でどんなものが行われているかわかるので、ぜひ投稿をお待ちしている。

##### 〈宮下光令理事〉

和文誌も同様であり、採用率もあげていきたいと考えている。

〈鈴木みずえ理事〉

若手助成でも引き続き検討していきたい。

〈深堀浩樹理事〉

大型研究の推進に関する事業について、若手、シニアと一緒に取り組めるような形で進めているプロセスで学ぶことも多いと思うので、また共有していきたい。

〈真田弘美理事長〉

本調査は論文化する予定であり、ぜひこれを活用して様々な研究者と仕事をするとときに看護の現状を伝えていただき、看護の研究を推進していければと思う。

## VIII.閉会にあたり

〈真田弘美理事長〉

閉会にあたり 2 点ある。1 点は COVID - 19 を経験して我々はオンラインで学べることを学習してきた。多くの学会がオンライン化され学術集会の文化が変わってきている。利点も多く積極的にオンラインを導入するなど、今後学術集会の在り方を検討しなければならない。予算の面でも COVID - 19 の影響で各委員会の旅費、会場費を含めて支出が減った。今後直接会うオンサイトとオンラインとをうまく使いながら、学術集会、セミナーの企画を考えていく必要があり、今後の課題にしたい。2 点目は若手研究者が活性化し、クオリティが上がれば上がるほど、それに不安を覚える若手研究者も増えていくのではという指摘がある。助成金の申請が終わった後の計画書を公表できるようなモデルを作っていければと考えている。

〈村嶋幸代監事〉

この 1 年間で、若手研究者の活動が活発になり、かつ JANS が主体になって研究を推進していくという動きがある。若手研究者に積極的に海外にも出て研究するための支援をするという動きも出てきている。先ほどの COVID-19 の調査結果の報告を受けて、看護の研究者は教育の duty が大きいですが、教育、研究、社会貢献すべて求められているため、できればいくつかの大学で始まっているようにサバティカルを採用するなどし、研究に従事できる時間を作ることも看護に根付いていくといいと思う。

## IX.閉会

以上をもって、2020 年 12 月社員総会が閉会した。委任状を含め出席者数は 289 名であったことが須釜副理事長より報告された。

2021 年 2 月 26 日

議 長 真田 弘美 ㊟

議事録署名人 武村 雪絵 ㊟

議事録署名人 綿貫 成明 ㊟

# 公益社団法人日本看護科学学会 2020年12月社員総会 議案書

日 時 2020年12月11日(金) 16:00~18:30(予定)

場 所 WEB開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

## I. 開 会

## II. 理事長挨拶

## III. 第40回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

## IV. 議長指名および議事録署名人の承認

## V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

## VI. 審議事項

第1号議案 2020年度事業計画変更(案)と補正予算(案)の承認

第2号議案 定款(第3条)変更(案)の承認

第3号議案 2021年度事業計画(案)の承認

第4号議案 2021年度予算(案)の承認

第5号議案 第43回日本看護科学学会学術集会会長の承認

## VII. 「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会(JANS)会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」報告

## VIII. 閉 会

## 公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 真田 弘美

副理事長 須釜 淳子

理事：池田 真理、石橋 みゆき、岡谷 恵子、亀井 智子、鈴木 みずえ、田中 マキ子、  
仲上 豪二郎、永田 智子、樋之津 淳子、深堀 浩樹、堀内 成子、宮下 光令、  
安酸 史子

監事：南 裕子、村嶋 幸代

## 名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋 みどり、  
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、近藤 潤子、新道 幸恵、中島 紀恵子、  
林 滋子、樋口 康子、松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

## 賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2020年10月20日現在)

## 日本看護科学学会学術集会会長

第40回学術集会会長

第41回学術集会会長

第42回学術集会会長

萱間 真美

百瀬 由美子

森山 美知子

## 社員

### 【北海道】

大日向 輝美  
河原田まり子  
川村 三希子  
菊地 ひろみ  
今野 美紀  
澤田 いずみ  
城丸 瑞恵  
長谷川 真澄  
樋之津 淳子  
平 典子  
松浦 和代  
矢野 理香  
吉田 礼維子

### 【東北】

朝倉 京子  
安藤 広子  
石井 範子  
一戸 とも子  
遠藤 恵子  
大森 純子  
尾崎 章子  
角濱 春美  
桑名 佳代子  
小林 淳子  
武田 淳子  
武田 利明  
鄭 佳紅  
野戸 結花  
原 玲子  
藤田 あけみ  
古瀬 みどり  
宮下 光令  
吉田 俊子

### 【関東A】

飯田 苗恵  
市村 久美子  
牛久保美津子  
内田 陽子  
岡 美智代  
金子 昌子  
加納 尚美  
神田 清子  
近藤 浩子  
斉藤 基  
佐藤 由美  
鈴木 幸子  
高井 ゆかり

常盤 洋子  
巴山 玉蓮  
春山 早苗  
廣瀬 規代美  
二渡 玉江  
古谷 佳由理  
松田 安弘  
水野 道代  
村井 文江  
村上 礼子  
安酸 史子  
横山 京子  
六角 僚子

### 【関東B】

荒木田美香子  
飯村 直子  
池崎 澄江  
石橋 みゆき  
上野 まり  
岡田 忍  
数間 恵子  
勝山 貴美子  
金井 PAK 雅子  
黒田 裕子  
近藤 まゆみ  
齋藤 やよい  
佐藤 禮子  
茂野 香おる  
島袋 香子  
白水 真理子  
高橋 眞理  
田高 悦子  
手島 恵  
永田 智子  
中山 登志子  
深堀 浩樹  
正木 治恵  
眞嶋 朋子  
増島 麻里子  
松下 年子  
水戸 優子  
村上 明美  
村中 陽子  
森 明子  
森 恵美  
湯浅 美千代  
吉田 澄恵  
和住 淑子

渡邊 眞理

### 【東京A】

五十嵐 歩  
大江 真琴  
大久保 暢子  
大田 えりか  
柏木 聖代  
片岡 弥恵子  
上別府 圭子  
亀井 智子  
戈木クレイグ  
ヒル 滋子  
眞田 弘美  
習田 明裕  
武村 雪絵  
田中 眞琴  
仲上 豪二朗  
中山 和弘  
成瀬 昂  
春名 めぐみ  
堀内 成子  
前田 樹海  
宮本 有紀  
吉田 千文

### 【東京B】

阿部 幸恵  
飯野 京子  
池田 眞理  
井上 智子  
井村 眞澄  
江本 リナ  
大久保 功子  
太田 喜久子  
岡谷 恵子  
柏木 公一  
香春 知永  
亀岡 智美  
川原 由佳里  
北 素子  
草間 朋子  
小松 浩子  
佐々木 幾美  
佐藤 紀子  
田中 美恵子  
筒井 眞優美  
長江 弘子  
本庄 恵子  
守田 美奈子

山内 豊明  
吉田 みつ子

綿貫 成明

### 【甲信越】

會田 信子  
浅川 和美  
有森 直子  
遠藤 みどり  
定方 美恵子  
征矢野あや子  
中込 さと子  
平澤 則子  
安田 貴恵子  
八尋 道子

### 【北陸】

石垣 和子  
大乗 麻由美  
加藤 眞由美  
北岡 和代  
須釜 淳子  
長谷川 智子  
平松 知子  
松井 優子  
丸岡 直子

### 【東海】

明石 恵子  
浅野 みどり  
足立 はるゑ  
足立 久子  
安藤 詳子  
池松 裕子  
市江 和子  
大石 ふみ子  
大島 弓子  
太田 勝正  
大西 文子  
岡田 由香  
片岡 純  
片山 はるみ  
門間 晶子  
篠崎 恵美子  
島内 節  
白尾 久美子  
白鳥 さつき  
杉浦 太一  
鈴木 みずえ  
多喜田 恵子  
奈良間 美保

野口 眞弓  
深田 順子  
藤井 徹也  
古田 加代子  
本田 育美  
操 華子  
箕浦 哲嗣  
三吉 友美子  
柳澤 理子  
山田 紀代美  
山田 聡子  
渡邊 順子

### 【近畿A】

赤澤 千春  
秋元 典子  
東 ますみ  
池田 清子  
石井 豊恵  
井上 智子  
ウィリアムソ  
ン 彰子

内布 敦子  
江川 幸二  
江川 隆子  
大野 かおり  
大野 ゆう子  
片田 範子  
勝原 裕美子  
工藤 美子  
久米 弥寿子  
グライナー 智  
恵子  
黒田 裕子  
洪 愛子  
河野 あゆみ  
近藤 麻理  
清水 安子  
鈴木 久美  
瀬戸 奈津子  
高橋 弘枝  
玉木 敦子  
都筑 千景  
泊 祐子  
檜木野 裕美  
二宮 啓子  
簀持 知恵子  
林 千冬  
法橋 尚宏

前川 幸子  
牧本 清子  
松田 宣子  
丸 光恵

### 【近畿B】

吾妻 知美  
伊波 早苗  
岩脇 陽子  
遠藤 俊子  
岡山 寧子  
桂 敏樹  
河原 宣子  
竹之内 沙弥香  
内藤 知佐子  
西垣 昌和  
西田 直子  
藤本 幸三  
星野 明子  
松月 みどり  
吉岡 さおり  
若村 智子

### 【中国・四国】

吾郷 美奈恵  
畦地 博子  
井伊 久美子  
伊東 美佐江  
内田 宏美  
瓜生 浩子  
大川 宣容  
岡田 淳子  
雄西 智恵美  
折山 早苗  
掛田 崇寛  
片山 陽子  
岸田 佐智  
久保田 聰美  
小山 眞理子  
陶山 啓子  
祖父江 育子  
竹崎 久美子  
長戸 和子  
中西 純子  
中山 洋子  
野嶋 佐由美  
野本 百合子  
原 祥子  
百田 武司  
深田 美香



藤田 佐和  
南 裕子  
宮下 美香  
森下 安子  
森本 美智子  
森山 美知子  
薬師神 裕子  
山田 覚

**【九州・沖縄】**  
飯野 英親  
宇佐美 しおり  
宇都 由美子  
江藤 宏美  
大池 美也子  
岡崎 美智子  
尾形 由起子

影山 隆之  
神里 みどり  
金城 芳秀  
国府 浩子  
斉藤 ひさ子  
佐藤 香代  
正野 逸子  
竹熊 千晶

谷口 初美  
田村 やよひ  
長家 智子  
永松 有紀  
野間口 千香穂  
橋口 暢子  
日高 艶子  
藤田 君支

前田 ひとみ  
益守 かづき  
松浦 賢長  
三橋 睦子  
宮園 真美  
宮林 郁子  
村嶋 幸代  
村田 節子

以上、312名  
地区別  
五十音順

(2020年10月20日現在)

# 総務報告

## 1. 会員推移 (2020年4月1日～2020年10月31日)

### 1) 正会員数増減

#### ①2020年4月1日正会員数

9129名 = 2020年3月31日正会員数9751名 - 2020年度資格喪失者622名  
(自主退会384名、会費未納238名)

#### ②2020年度の入会者

750名 = 新規入会678名 + 再入会72名

#### ③2020年度の死亡喪失者 1名

#### ④会員区分の変更 1名 正会員から名誉会員 (下記3) の承認者)

### 2) 賛助会員増減 1件 2019年度末退会

### 3) 名誉会員 承認 1名

## 4) 2020年10月31日現在 会員数

正会員	9,877
名誉会員	17
賛助会員	4
<b>会員総数</b>	<b>9,898</b>

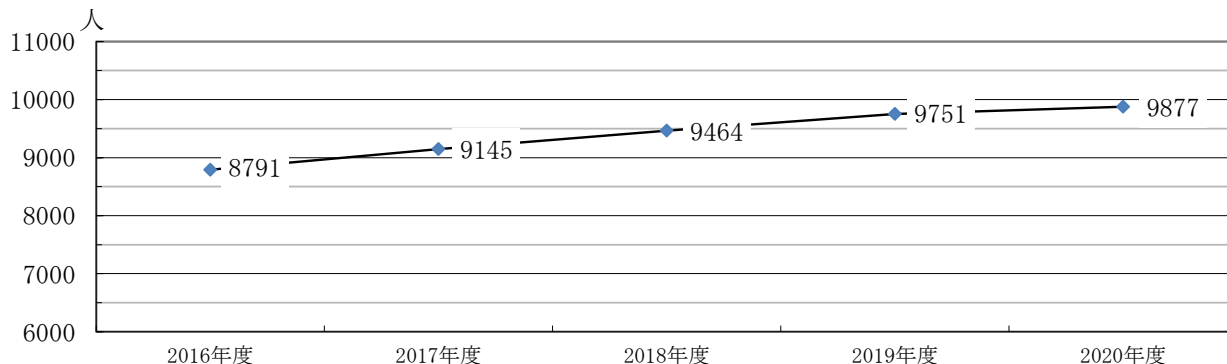
## 2. 地区別正会員数 (2020年10月31日 会員数9,708)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 399	北海道	399	北陸	富山	97	九州・沖縄	福岡	469	
				石川	181		佐賀	52	
東北 608	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	139 90 186 75 69 49	東海	福井	71		長崎	69	
				静岡	203		熊本	75	
				愛知	515		大分	51	
				岐阜	204		宮崎	71	
				三重	154		鹿児島	49	
				近畿 A	611		沖縄	91	
関東 A 813	茨城 栃木 群馬 埼玉	153 130 170 360	近畿 B	大阪	611		宛先不明者		32
				兵庫	560		合計		9,877
				滋賀	108				
				京都	259				
関東 B 1146	千葉 神奈川	526 620	中国・四国	奈良	95				
				和歌山	51				
東京 A 703	※1	703	中国・四国	鳥取	44				
				島根	65				
東京 B 817	※2	817		岡山	188				
				広島	287				
甲信越 327	新潟 長野 山梨	129 121 77		山口	49				
				徳島	60				
				香川	64				
				愛媛	107				
				高知	132				

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

## 3. 正会員数の推移 (年度別)



# 公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2020年4月1日～12月11日)

## 2020年度第1回理事会

日時：2020年5月22日（金） 13：00～15：30

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事15名、監事2名、第40回学術集会会長 ※全出席者WEB参加

### 〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
2. 総務会からの提案
  - 1) 名誉会員の推薦について
  - 2) 若手研究者養成助成について
  - 3) 12月社員総会、第40回学会総会について
  - 4) COVID-19に関するアドホック委員会について
  - 5) その他
3. 2020年6月定例社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
4. 各委員会からの報告および審議事項
  - 1) 和文誌編集委員会
  - 2) 英文誌編集委員会
  - 3) 表彰論文選考委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
  - 6) 若手研究者活動推進委員会
  - 7) 国際活動推進委員会
  - 8) 看護学学術用語検討委員会
  - 9) 社会貢献委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 看護倫理検討委員会
  - 12) 利益相反委員会
  - 13) 研究倫理審査委員会
  - 14) 災害看護支援委員会
  - 15) 総務委員会
  - 16) 他団体との連携について

- ① 日本看護系学会協議会
  - ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）
  - ③ 日本学術会議
  - ④ その他の団体
5. 入会希望者の承認
  6. その他

## 2020 年度第 2 回理事会

日 時：2020 年 6 月 14 日（日） 10：00～10：50

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者 WEB 参加

### 〈審議事項〉

1. 総務会からの提案、報告
  - 1) 第 40 回学術集会での理事会企画関連について
  - 2) 若手研究者活性化に向けての取り組み報告書について若手報告書案
  - 3) COVID-19 看護研究等対策委員会について
  - 4) 会則等委員会（仮称）について
2. 2020 年 6 月定例社員総会議案について
  - 1) 2020 年 6 月定例社員総会資料の確認
  - 2) 議事進行および役割分担の確認
3. 委員会からの審議事項
4. 入会希望者の承認

## 2020 年度第 3 回理事会

日 時：2020 年 8 月 24 日（月） 13：00～16：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 40 回学術集会会長、第 41 回学術集会会長、WANS 理事長

※全出席者 WEB 参加

### 〈審議事項〉

1. 世界看護科学学会（WANS）からの報告
2. 第 40 回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
3. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
4. 総務会からの提案について
  - 1) 第 43 回学術集会の開催地と学術集会会長について

- 2) 12月社員総会と第40回学会総会について
5. 新規事業について
  - 1) COVID-19看護研究等対策委員会 アンケートについて
  - 2) 若手研究者養成助成について
  - 3) 会則等委員会について
6. 会計報告（各委員会予算執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

### 2020年度第4回理事会

日時：2020年11月6日（金） 13:00～16:00

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事13名、監事1名、第40回学術集会会長、第41回学術集会会長、選挙管理委員長

※全出席者WEB参加

#### 〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
2. 第41回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
3. 2021年選出理事候補者選挙について
4. 総務会からの提案について
  - 1) 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）会長（案）について
  - 2) 日本看護系学会協議会2021-2022役員候補者推薦について
  - 3) ヘルシー・ソサエティ賞のオンライン授賞式について
5. 12月社員総会の議案の承認、実施方法の確認、進行分担表の確認
6. 第40回学会総会の議案の承認、実施方法の確認、進行分担表の確認
7. 会計報告（2020年度委員会活動費執行状況）
8. 各委員会からの報告および審議事項
9. 入会希望者の承認

### 2020年度第5回理事会

日時：2020年12月11日（金） 14:00～16:00（予定）

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事15名、監事2名（予定）※全出席者WEB参加

#### 〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について

2. 2020年12月社員総会の資料と進行分担表の確認
3. 第40回学会総会の資料と進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認

公益社団法人日本看護科学学会 2020年度委員会名簿

※所属機関名は2020年10月20日現在の会員登録データに基づいています。

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名	
和文誌編集	委員長/編集長	宮下光令	東北大学大学院	
	編集長	春名めぐみ	東京大学大学院	
	編集長	河野あゆみ	大阪市立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学領域	
		宇佐美しおり	四天王寺大学	
		江本りナ	日本赤十字看護大学	
		高井ゆかり	群馬県立県民健康科学大学	
		玉木敦子	神戸女子大学	
		成瀬昂	東京大学大学院	
		長谷川真澄	札幌医科大学大学院	
		春山早苗	自治医科大学院	
		松井優子	公立小松大学	
		宮本有紀	東京大学大学院	
		森本美智子	岡山大学大学院	
		落合亮太	横浜市立大学	
		梶井文子	東京慈恵会医科大学院	
		キタ幸子	東京大学大学院	
		酒井明子	福井大学大学院	
		佐藤伊織	東京大学大学院	
		鶴若麻一輝	聖路加国際大学院	
		新井小紀	名古屋大学大学院	
	細田泰子	東京医科歯科大学大学院		
	山勢博彰	大阪府立大学大学院		
	師岡友紀	山口大学大学院		
	吉田美香	大阪大学大学院		
	會計	和田美香	東北大学	
英文誌編集	編集長	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing	
	委員長	堀内成子	聖路加国際大学	
	理事	深堀浩樹	慶應義塾大学	
		北岡和代	公立小松大学	
		グライナー智恵子	神戸大学大学院	
		野口眞弓	日本赤十字豊田看護大学	
		前田ひとみ	熊本大学	
		操華子	静岡県立大学	
		若村智子	京都大学大学院	
		池田理恵子	岡山県立大学	
		石川陽子	東京都立大学	
		石原逸子	神戸市看護大学	
		梅田麻希	兵庫県立大学	
		加藤憲司	神戸市看護大学	
		グレッグ美鈴	神戸市看護大学	
		小林京子	聖路加国際大学院	
		コリ一紀	北海道大学大学院	
		齋藤あや	新潟県立大学	
		鈴木美穂	新聖路加国際大学	
		月野木ルミ	日本赤十字看護大学	
		中村美鈴	東京慈恵会医科大学院	
		深井喜代子	東京慈恵会医科大学院	
		松谷美和	国際医療福祉大学	
		丸山川昭や	松陰大学	
		山崎あけみ	大阪大学	
		江藤宏美	大阪府立大学	
		會計	江藤宏美	大阪府立大学







# 委員会活動報告

(2020年1月～12月)

## (1) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

学会誌（日本看護学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

### ① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・ 日本看護科学会誌 40 巻をオンラインで発刊した。
- ・ 2020 年 1 月以降の投稿論文数：161 論文（2020 年 10 月 23 日現在）
- ・ 投稿規程における著者要件の変更、迅速査読の導入が決定したため、11 月 1 日から新投稿規程の適用を実施した。
- ・ 論文公開時には会員向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・ そのほか、投稿規程等の改訂、若手支援策など適宜メーリングリストで意見交換しながら進めている。
- ・ 表彰論文選考に参画した。

### ② 和文誌の著者要件について検討

代議員 312 名に対し、Web 調査を実施した（実施期間 4 月 17 日～4 月 30 日）。アンケートの結果に基づき、「段階的に共著者の学会員要件の廃止を検討する。当面、筆頭著者は会員である必要があるが、共著者は非会員でもよく、採択後に掲載料を徴収する」ことについて、2020 年度第 1 回理事会（5 月 22 日）に提案し承認された。

### ③ 第 40 回学術集會にて交流集會「JANS 和文誌に修士論文・博士論文を載せよう！」を企画

## (2) 英文誌編集委員会（堀内成子理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。また JJNS セミナーも開催。

### ① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.17 をオンラインで発刊した。
- ・ 2020 年 1 月以降の投稿論文数は、581 編であった（2020 年 10 月 22 日現在）。
- ・ 2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士号の学位申請、または、博士号取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ 2019 年の impact factor は、0.806 であった（2020 年 6 月発表による）。

### ② JJNS セミナーの開催

- ・ JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2020 を WEB 開催する（2020 年 11 月 28 日収録、12 月中下旬より配信の予定）。

### ③ 出版社との契約更新内容検討中

- ・ 2022 年以降の契約更新プロポーザルを受け取り、検討中。

### (3) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

#### ① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 17 編（和文 9 編・英文 8 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 8 編（和文 5 編 英文 3 編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2020 年 8 月 21 日に、全代議員、役員 313 名にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10 月 9 日までに返信された 205 件について評価点の集計を行った。回収率 65.5%(205/313)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

#### 【優秀賞】

- ◆ Quality-of-life predictors for men undergoing infertility treatment in Japan  
Kyoko Asazawa, Mina Jitsuzaki, Akiko Mori, Tomohiko Ichikawa, Katsuko Shinozaki  
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume16, Issue3, pages 329-341
- ◆ Comparison of wiping and rising techniques after oral care procedures in critically ill patients during endotracheal intubation and after extubation: A prospective cross-over trial.  
Keita Muramatsu  
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume16, Issue1, pages 80-87)

#### 【奨励賞】

- ◆ 生体肝移植後の高齢レシピエントの自己管理行動の現状と自己管理行動に影響する要因  
堀部 光宏, 赤澤 千春  
日本看護科学会誌 2019 年 39 巻 p147-156

#### ② 他組織からの表彰候補者の推薦

山上の光賞、日本学術振興会（育志賞含む）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、推薦を行った。

- ・ 山上の光賞について：日本看護協会が看護関連団体からの推薦を取りまとめて推薦した本会名誉会員でもある川村佐和子先生が、第 6 回山上の光賞を受賞された。本会も日本看護協会に賛同し推薦団体の 1 つとして推薦書を作成し提出した。
- ・ ヘルシーソサエティ賞について：本会からも推薦した真田弘美先生が、第 16 回ヘルシーソサエティ賞（パイオニア部門）を受賞された。

#### ③ 学術集会演題表彰制度の検討

第 41 回学術集会から適用する演題表彰制度について、定款施行細則改定案と、規程案の作成を行い、授与する賞の種類、選考方法、手順などの事項を検討した。賞は「優秀演題発表賞」「優秀ポスター発表賞」「若手優秀演題発表賞」「優秀抄録賞」とし、選考は 2 段階で行う方法とした。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、上位 10 名を選考する。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会を主に採点をして最終選考し、

閉会式などで表彰する方法とした。演題登録システムに関して3社から企画提案と見積書を収集し、業者を選定した。

#### (4) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に国内外の看護学研究に関する情報の収集・整理・発信を行う。また研究者ネットワーク構築の仕組みづくりと看護学研究者の研究能力向上のための事業を実施。

##### ① 委員会としての活動

- ・研究・学術推進委員会を10月までに8回（2020年1月20日、3月29日、4月21日、5月15日、6月17日、7月12日、9月6日、10月10日）開催した。
- ・「大型研究費の獲得を目指した支援」に関する活動を開始し、3月13日に日本学術振興会の「学術変革領域研究（A）」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者となる意思のある人の募集を行った。3件の応募があり1名を選定した。ついで選定された代表者と本委員会で協議を行い、『『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出』のテーマで、「学術変革領域研究（A）」の令和3(2021)年度の公募に挑戦する方針とした。この研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する人を募集し、27名の応募があった。選定プロセスの協議や本活動を進めていく上での申し合わせ事項の検討を行った。

##### ② JANS セミナーの開催

- ・第16回 JANS セミナー「若手からシニアまで、看護学研究者全員で挑むイノベーション：大型研究マネジメントと研究費の継続的獲得のヒントを学ぼう」をWEB開催した（2020年7月6日～10月2日）。参加人数は、437名（会員限定）であった。

##### ③ 第40回学術集会での交流集会の企画

- ・第40回学術集会の交流集会において「看護学研究者がよりインパクトのある大規模な研究に挑戦していくために」を企画した。

#### (5) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子副理事長）

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組みづくりを目指す。

##### ① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・2020年1月パネル会議メンバーを決定し、3月に推奨文草案に関するレビューを実施した。
- ・2020年4月11日にパネル会議を Zoom によるオンラインで開催した。
- ・ガイドライン作成メンバーで草案修正を11月末までに実施、その後、統括委員会を開催する。

## ② 新たなケアガイドライン作成グループを設立し、活動を支援する

1) 「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」  
佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）

2) 「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）

- ・ 2020年1月～2月 SR チームメンバーを若手研究者活動推進委員会と共同で学会ホームページ、会員一斉メール等から募集し、7名から応募があった。各自、希望ガイドライン作成チームに加入した。
- ・ 2020年8月1日（土）13時～15時 Zoom によるオンラインでSR講習会を行った。

講師：大田えりか先生

## ③ 活動状況の公開

- ・ 日本看護系学会協議会ワークショップ 11月29日 オンライン  
「看護ケアのガイドライン作成・活用に向けて」
- ・ 第40回学術集会 シンポジウム6 12月13日 オンライン  
「看護行為の開発ならびに標準化のプロセス 学会主導看護ケアガイドライン作成プロジェクトの紹介」

## (6) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二朗理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

### ① 委員会としての活動

- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。
- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2020年10月現在で計813名であり増加中である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。
- ・ 第40回学術集会での英語シンポジウム「Next-generation knowledge development approach through team science」を企画し、準備した。
- ・ 第40回学術集会での若手ネットワークサロンのオンライン実施に向け準備した。

### ② JANS セミナーの開催

- ・ 第15回 JANS セミナー「若手研究者のワークエンゲージメントー研究ってやっぱり面白い！ー」を2020年2月11日 AP 東京八重洲で開催した。参加人数は、会場受講58名（会員43名、非会員14名、学生1名）、Web受講（会員限定）282名であった。

### ③ COVID-19 が JANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

- ・ COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を3名選出し、調査を実施した。詳細は COVID-19 看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望の多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組みを検討した。

## (7) 国際活動推進委員会\*世界看護科学学会を含む(池田真理理事)

国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を実施。

また、世界看護科学学会(World Academy of Nursing Science 「WANS」)の事務局運営も担当。

### ① 委員会としての活動

- ・ JANS ホームページ内の異文化看護データベースを見直し、データベースのあり方を再検討した。その結果、これまでの異文化看護データベースの枠組を基にデータの内容(項目の枠組)や情報提供のあり方を再検討し、高齢者や終末期に関する項目などを追加した枠組を設定した。
- ・ 第40回学術集会の英語セッションでの発表を促進するための委員会企画セミナー「国際学会オーラルプレゼンテーションへの第一歩」を企画し、4月19日に実施予定であったが、昨今の新型コロナウイルス感染予防対策のために、中止を決定した。セミナーへの申し込みがすぐに定員に達したことから必要性を鑑み、第40回学術集会で委員会企画としてシンポジウムに開催形式を変更し、実施する予定である。
- ・ 会員の国際的な活動についての実態やニーズに関する調査を計画中である。
- ・ 世界看護科学学会(WANS)事務局業務を行う(ホームページ維持管理含む)。

### ② 世界看護科学学会(World Academy of Nursing Science : WANS)

- ・ 世界看護科学学会(WANS)事務局業務を引き続き実施(ホームページ維持管理含む)。
- ・ 第6回WANS学術集会は昨今の新型コロナウイルス感染予防対策のために、中止となった。
- ・ 事務局として任期終了となった理事長の選出についての業務を行い、6月に片田理事長が再選された。
- ・ WANS第6回学術集会会期中に行う予定であったWANS理事会については、議題を整理し、11月5日にZoom会議にて実施した。

## (8) 看護学学術用語検討委員会(安酸史子理事)

看護用語の新たな定義を検討するため以下の委員会活動を行った。

### ① 1月4日(対面会議)

- ・ 委員各自が調べてきた内容を持ち寄り、セルフケアについて討議し、相互関係、関係性、合意形成プロセス、ケア、セルフケア、セルフケア支援が前提で、生命が優先される場合は生命を優先させてから合意形成に進むというコンテンツを盛り込んだ案を委員会案にすることとした。
- ・ 定義案班と倫理審査班に分かれて検討することになる。

### ② 5月2日(オンライン会議)

- ・ セルフケア定義案について検討。委員会としては「ケア」「セルフケア」「セルフケア支援」と概念を分け、看護との絡みで明確な定義づけを行う方向で検討された。
- ・ 第二段階のクリティークのために臨床の看護職者からヒアリングを行うことが決まった。
- ・ コロナ禍なので、専門家へのヒアリングは、Zoomでのフォーカスグループインタビューで進めることになった。

### ③ 7月12日（オンライン会議）

- ・研究倫理審査申請にあたり、ヒアリングの対象者及び人数、ヒアリングの進め方について具体的に話し合った。その後、メール会議を経て7月28日に関西医科大学研究倫理委員会に申請し、最終的に9月11日に倫理審査を通った。
- ・その後、救急、急性期、回復期、慢性期、精神、母性、小児、老年、在宅、地域の各領域から看護師、保健師、助産師、養護教諭等を1～2名ずつ選定する作業に入り、10月25日現在でほぼ確定した。フォーカスグループインタビューの日程調整に入る段階である。

### (9) 社会貢献委員会（鈴木みずえ理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民フォーラム」や次世代の看護学研究者育成となる「ナーシング・サイエンス・カフェ」を実施。

- ・JANSとしての社会貢献のあり方を検討した。
- ・第39回学術集会で開催した「ナーシング・サイエンス・カフェ」の講演内容を録画し、日本看護科学学会ホームページ（YouTubeの公式JANSチャンネル）で配信した（2020年1月8日～）。

### (10) 広報委員会（田中マキ子理事）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存）、学会ホームページの定期的な更新や維持管理等を実施。

#### ① ホームページの更新

- ・本会公式ウェブサイトであるホームページの内容の更新と整理を事務所と協力のうえ定期的に行った。

#### ② 学術集会等の広報活動

- ・第39回学術集会の記録を行い、写真をホームページに公開した。
- ・学術集会や総会時に使用するために、バナースタンドを作成した。
- ・第40回学術集会市民公開講座のフライヤー作成を行い配布した。

#### ③ 第40回学術集会において交流集会を開催

#### ④ 委員会成果物の公表

- ・JANS研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、内容に関する検討（Key wordsを示し検索しやくする等）他、2019年度表彰論文の追加掲載を行った。

#### ⑤ 英語版ホームページのリニューアルの検討

- ・英語版ホームページのリニューアルの検討を行い、改変方針について承認を得た。

### (11) 看護倫理検討委員会（樋之津淳子）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

#### **(12)利益相反委員会（鈴木みずえ理事）**

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大なCOI状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・第40回学術集会会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。

#### **(13)研究倫理審査委員会（岡谷恵子理事）**

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

- ・1件の申請があり、簡易審査を行った。

#### **(14)災害看護支援委員会（永田智子理事）**

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。
- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討することとしている。今期は該当なし。
- ・2020年3月18日の防災学術連携シンポジウムを遠隔傍聴し情報収集を行った。
- ・第40回日本看護科学学会学術集会にて、交流集会「COVID-19の経験を次の健康危機に活かす：看護のエビデンス構築に向けて」を開催予定である。

#### **(15)若手研究者助成準備委員会（鈴木みずえ理事）**

2021年4月からの若手研究者助成をめざし以下の活動を行った。

- ・2021年度からの実施を計画し、準備委員会を立ち上げた。
- ・新たな事業となるため、規程類の作成を行い、「若手研究者助成規程」「若手研究者助成選考細則」「若手研究者助成選考申し合わせ」「若手研究者助成資金細則」の設置を進めた。
- ・事業の実施には内閣府の公益認定等委員会に変更認定を申請し承認を得る必要があり、11月6日の第4回理事会で承認をいただき申請書の作成を進めている。通常、認定までには約3ヵ月程度かかることが予想されており、2020年12月までの電子申請を予定している。



## (16) 会則等委員会（石橋みゆき理事）2020年6月新設

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため2020年6月に設置された委員会である。

### ① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

- ・若手研究者の育成及び支援に関する新規事業の定款への反映。
- ・正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性の検討を始めた。

### ② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

## (17) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子副理事長）2020年6月新設

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、このCOVID-19の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。

- ・日本看護科学学会の会員を対象に緊急事態宣言期間中の活動に関するアンケート調査をオンラインで行った（7月1日～8月1日）。
- ・上記調査結果を学会ホームページに速報として公開した（9月11日）。
- ・第40回学会総会にて報告予定である（12月12日）。
- ・会員調査結果をさらに解析し論文投稿を準備中である。

## (18) 総務委員会（永田智子理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した。（会員数等については、総務報告を参照）

### ① 入会審査、会員管理の実施

- ・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。

### ② 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・事務所職員との緊密な連携をとり、情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特にCOVID-19対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。
- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

## (19)他機関との連携活動

### ①日本看護系学会協議会（JANA）（石橋みゆき理事）

- ・2020年度社員総会は、COVID-19の感染拡大を防ぐため開催形式を変更して開催された。  
2020年6月7日（日）に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（WEB開催）。  
2020年度社員総会に書面議決書で出席した（2020年6月21日（日）開催）。  
議案：2019年度決算報告、2019年度会計監査報告、2020年度役員選挙（選挙管理委員）
- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、5名の会員を個別調査部会員に推薦した。
- ・その他、JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

### ②看護系学会等社会保険連合（看保連）（永田智子理事）

- ・第2回介護報酬体系の在り方に関する検討委員会が2020年2月17日（月）に開催され、委員1名が参加した。
- ・看保連2020年度研究助成への応募5件を審査し、1件を承認した。

### ③日本学術会議（石橋みゆき理事）

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ・日本看護科学学会として会員候補者6名の情報提供を行った。

### ④その他の機関（石橋みゆき理事）

対応すべき事案はなかった。

## (20)選挙管理委員会（青木きよ子委員長）

- ・2020年9月28日 第1回選挙管理委員会を開催した。  
理事候補者選挙準備  
（選挙日程決定、公示文書作成、選挙人・被選挙人確認、Web選挙システム投票要領作成）  
電子投票受付期間：2021年2月1日（月）正午～28日（日）23：59  
開票：2021年3月1日（月）午後3時より

## 第 1 号議案

### 2020 年度事業計画変更（案）と補正予算（案）の承認

#### 1. 第 40 回学術集会の開催方法の変更

東京国際フォーラムで開催を予定していたが、オンラインによる WEB 開催に変更した。

#### 2. 委員会の新設

2020 年 6 月以降に下記の委員会を新設した。

- ・ 会則等委員会
- ・ COVID-19 看護研究等対策委員会（期間限定）
- ・ 若手研究者助成準備委員会

#### 3. 英語ホームページのリニューアル

日本語版ホームページと同様の様式で見やすく、検索もしやすいホームページにリニューアルし、更新頻度も多くしてサイトの充実を図る。

今年度中にリニューアルを行う。

担当は広報委員会が中心となり、理事会、事務所の協力により、2020 年 2～3 月頃の公開を目指す。

2020年度 収支(補正)予算書案  
2020年 4月 1日 から2021年 3月 31日 まで

科 目	補足	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2020年度 予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	500	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
②会費収入		101,300,000	101,300,000	0
正会員会費収入		101,000,000	101,000,000	0
賛助会員会費収入		300,000	300,000	0
③学会誌収入		1,133,000	1,133,000	0
学会誌販売収入		429,000	429,000	0
著作権料収入		704,000	704,000	0
④寄附金・助成金収入(学術集會含まず)		250,000	250,000	0
⑤セミナー収入		4,000,000	4,000,000	0
JANSセミナー		2,870,000	2,870,000	0
JJNSセミナー		1,130,000	1,130,000	0
⑥雑収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
⑦学術集會収入		38,617,000	70,754,000	△ 32,137,000
学術集會参加費収入		34,500,000	58,040,000	△ 23,540,000
事前登録会員(11,000円)		27,500,000	22,000,000	5,500,000
事前登録非会員(14,000円税込)		7,000,000	13,440,000	△ 6,440,000
事前登録学部生	※1	0	0	0
当日登録会員(13,000円)		0	13,000,000	△ 13,000,000
当日登録非会員(15,000円税込)		0	9,600,000	△ 9,600,000
当日登録学部生		0	0	0
寄附金・助成金収入		300,000	1,000,000	△ 700,000
寄附金		300,000	1,000,000	△ 700,000
助成金		0	0	0
広告販売収入		3,817,000	10,834,000	△ 7,017,000
企業展示出展料	※2	660,000	6,765,000	△ 6,105,000
広告掲載料	※3	1,507,000	1,759,000	△ 252,000
ランチョンセミナー	※4	1,650,000	2,310,000	△ 660,000
懇親会収入	※5	0	880,000	△ 880,000
<b>事業活動収入合計(I a)</b>		<b>145,301,000</b>	<b>177,438,000</b>	<b>△ 32,137,000</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		79,659,000	114,164,000	△ 34,505,000
学会誌発行費支出		25,811,000	25,811,000	0
和文誌編集費支出		7,191,000	7,191,000	0
英文誌編集費支出		18,620,000	18,620,000	0
編集活動費支出		1,555,000	1,555,000	0
和文誌編集委員会費支出		710,000	710,000	0
英文誌編集委員会費支出		845,000	845,000	0
看護学術振興費支出		7,879,000	7,479,000	400,000
表彰論文選考委員会費支出		221,000	221,000	0
研究・学術推進委員会費支出		860,000	860,000	0
看護ケア開発・標準化委員会		3,000,000	3,000,000	0
若手研究者活動推進委員会支出		818,000	818,000	0
国際活動推進委員会費支出		1,030,000	1,030,000	0
看護学術用語検討委員会費支出		815,000	815,000	0
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
災害看護支援委員会支出		200,000	200,000	0
COVID-19看護研究等対策委員会費支出	※6	400,000	0	400,000
研究学術活動支援費支出		4,442,000	4,292,000	150,000
受賞論文表彰費支出		193,000	193,000	0
若手研究者助成準備委員会	※7	150,000	0	150,000
研究倫理審査委員会費		99,000	99,000	0
JANSセミナー開催費		2,870,000	2,870,000	0
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
社会的活動費支出		1,336,000	1,336,000	0
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		651,000	651,000	0
広報委員会費支出(公益目的事業分)		685,000	685,000	0

科 目	補足	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2020年度 予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異
学術集会費支出		<b>38,636,000</b>	<b>73,691,000</b>	<b>△ 35,055,000</b>
当年度開催学術集会		<b>35,699,000</b>	<b>70,754,000</b>	<b>△ 35,055,000</b>
会場費支出	※8	500,000	28,816,000	△ 28,316,000
会議費支出		650,000	640,000	10,000
旅費交通費支出	※9	1,000,000	3,210,000	△ 2,210,000
消耗品費支出	※10	1,000,000	491,000	509,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,600,000	1,454,000	146,000
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)	※11	4,000,000	3,403,000	597,000
委託費支出	※12	19,500,000	28,090,000	△ 8,590,000
人件費支出	※13	1,000,000	150,000	850,000
謝金支出	※14	2,000,000	1,340,000	660,000
雑支出	※15	4,449,000	2,480,000	1,969,000
懇親会運営費支出	(※5)	0	680,000	△ 680,000
次年度開催学術集会(準備期間)		<b>2,937,000</b>	<b>2,937,000</b>	<b>0</b>
会場費支出		0	0	0
会議費支出		120,000	120,000	0
旅費交通費支出		300,000	300,000	0
消耗品費支出		236,000	236,000	0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		1,580,000	1,580,000	0
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		301,000	301,000	0
委託費支出		400,000	400,000	0
人件費支出		0	0	0
謝金支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
<b>②管理費支出</b>		<b>61,577,000</b>	<b>60,677,000</b>	<b>2,900,000</b>
給料手当支出		24,210,000	24,210,000	0
福利厚生費支出		4,200,000	4,200,000	0
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		867,000	867,000	0
社員総会費		4,795,000	4,795,000	0
理事会費		3,228,000	3,228,000	0
委託費支出	※16	8,476,000	6,276,000	2,200,000
渉外費支出		20,000	20,000	0
旅費交通費支出		30,000	30,000	0
通信運搬費支出		1,886,000	1,886,000	0
消耗品費支出		1,250,000	1,250,000	0
印刷製本費支出		9,000	9,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		738,000	738,000	0
賃借料支出		4,775,000	4,775,000	0
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		650,000	650,000	0
負担金支出		380,000	380,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		2,374,000	2,374,000	0
総務費支出		<b>1,244,000</b>	<b>544,000</b>	<b>700,000</b>
総務委員会費支出		10,000	10,000	0
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出	※17	700,000	0	700,000
選挙費用支出		405,000	405,000	0
<b>③その他支出</b>		<b>2,000,000</b>	<b>2,000,000</b>	<b>0</b>
資格喪失者会費支出		2,000,000	2,000,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>143,236,000</b>	<b>174,841,000</b>	<b>△ 31,605,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>2,065,000</b>	<b>2,597,000</b>	<b>△ 532,000</b>

科 目	補足	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2020年度 予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>				
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）		405,000	405,000	0
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		110,000	110,000	0
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>		<b>815,000</b>	<b>815,000</b>	<b>0</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金		1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立		870,000	870,000	0
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）		0	0	0
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>		<b>1,870,000</b>	<b>1,870,000</b>	<b>0</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>		<b>△ 1,055,000</b>	<b>△ 1,055,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
<b>財務活動収入合計（Ⅲa）</b>		0	0	0
2. 財務活動支出				
<b>財務活動支出合計（Ⅲb）</b>		527,000	527,000	0
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>		<b>△ 527,000</b>	<b>△ 527,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>		<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>△ 517,000</b>	<b>15,000</b>	<b>△ 532,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>		<b>113,853,000</b>	<b>113,853,000</b>	<b>0</b>
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>113,336,000</b>	<b>113,868,000</b>	<b>△ 532,000</b>

- ※1 WEB開催のため参加費は事前・当日の区別をしない。会員11,000円×2,500名、非会員14,000円×500名。
- ※2 会場展示中止、特設サイト広告料。
- ※3 HPバナー広告料、プログラム集広告掲載料。
- ※4 セミナー共催5社。
- ※5 ワインパーティー（懇親会）は中止。
- ※6 新委員会予算計上。
- ※7 新委員会予算計上。2021年度から助成を始めるため、2020年度は準備委員会。
- ※8 市民公開講座・講演収録会場費。
- ※9 委員会交通費＋収録会場への交通費。
- ※10 WEB開催開催移行に伴うPC周辺機器など。
- ※11 WEB開催（Zoom）マニュアル作成など。
- ※12 演題登録、アプリ関連、WEB開催画面作成、Zoom・LIVE配信、オンデマンド配信など。
- ※13 各委員会（8部門）のアルバイト（9月～1月）
- ※14 海外4名＋国内2名、演者追加あり。
- ※15 座長記念品、記念品送料、謝金海外送金手数料、お礼状、予備費など。
- ※16 ホームページのEnglishページ制作費用。
- ※17 新委員会予算計上。

## 第2号議案

### 定款（第3条）変更（案）の承認

旧	新
<p>第3条</p> <p>本会は、前条の目的を遂行するため次の事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①学術集会の開催</li><li>②学会誌等の発行</li><li>③研究活動の推進</li><li>④国内外の関連学術団体との協力と連携</li><li>⑤研究論文の表彰</li><li>⑥国際的な研究協力の推進</li><li>⑦人々の健康と福祉に貢献するための社会活動</li><li>⑧その他本会の目的達成に必要な事業</li></ul> <p>2 前項各号の事業は、日本全国において行うものとする。</p>	<p>第3条</p> <p>本会は、前条の目的を遂行するため次の事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①学術集会の開催</li><li>②学会誌等の発行</li><li>③研究活動の推進</li><li><b>④若手研究者の育成及び支援</b></li><li><u>⑤</u>④国内外の関連学術団体との協力と連携</li><li><u>⑥</u>⑤研究論文の表彰</li><li><u>⑦</u>⑥国際的な研究協力の推進</li><li><u>⑧</u>⑦人々の健康と福祉に貢献するための社会活動</li><li><u>⑨</u>⑧その他本会の目的達成に必要な事業</li></ul> <p>2 前項各号の事業は、日本全国<u>及び海外</u>において行うものとする。</p>

定款の効力発生日（施行日）については、下記といたします。

「変更認定申請に対する行政庁の認定日（公益社団法人及び公益財団法人の認定に関する法律第11条第1項の規定による認定を受けた日）」

## 公益社団法人 日本看護科学学会 2021年度事業計画（案）

（2021年4月1日～2022年3月31日）

### (1) 学術集会

- ・ 第41回日本看護科学学会学術集会準備  
第41回学術集会会長：百瀬由美子（愛知県立大学）  
日程：2021年12月4日（土）・12月5日（日）  
場所：名古屋国際会議場
- ・ 第42回日本看護科学学会学術集会開催  
第42回学術集会会長：森山美知子（広島大学）  
日程：2022年12月3日（土）・12月4日（日）  
場所：広島国際会議場他
- ・ 第43回日本看護科学学会学術集会準備

### (2) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

- ・ 日本看護科学会誌第41巻を発行する。
- ・ 投稿規程・執筆要領等の見直しを図る。
- ・ 査読ガイドラインの見直しを含め、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。
- ・ 学会誌への投稿を促進し、掲載数増加を図る。
- ・ 学会誌への投稿・掲載の促進および編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（交流集会）を開催する。

### (3) 英文誌編集委員会（堀内成子理事）

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol. 18 を発行する。
- ・ JJNS セミナー2021 を開催する。
- ・ インパクトファクター向上を念頭に置いた査読基準を確立する。
- ・ 迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムを整備する。
- ・ 出版社との契約更新内容を検討する。

### (4) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

- ・ 表彰論文の選考を行い公表する。
- ・ 学術集会における演題表彰制度のシステムを構築する。
- ・ 第41回学術集会において表彰演題の選考を行い公表する。



#### **(5) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）**

- ・大型研究の推進に関する事業に取り組む（学術領域変革研究（A）への申請および申請後の対応等）。
- ・JANS セミナーの企画・開催を行う。
- ・学術集会において委員会の活動を報告する。
- ・その他、研究・学術推進に関する事業を実施する。

#### **(6) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子副理事長）**

- ・「摂食嚥下時の誤嚥残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」の草案を完成し、外部評価を受けた後、公開する。
- ・新規看護ケアガイドライン作成チームを立ちあげ、CQ 作成ならびに SR を行う。

#### **(7) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）**

- ・若手ネットワーク（Mailing list、エリア・コーディネーター、ネットワークサロン、学術集会での交流集会等）を活用した若手研究者活動の活性化を行う。
- ・上記ネットワークのオンライン化を推進する。
- ・国際化を推進する。
- ・若手会員増に向けたオンライン JANS セミナーを実施する。
- ・広報活動（学会ウェブサイトの更新、リーフレットの作成）の充実を図る。
- ・COVID-19 看護研究等対策委員会との連携による COVID-19 が若手看護学研究者に与える影響の把握及びハイリスク集団の同定、それに基づく支援方策を提案する。
- ・日本心理学会との連携強化のための活動を行う。

#### **(8) 国際活動推進委員会（池田真理理事）**

##### 1. 国際学会での研究発表の促進施策

- ・第 41 回学術集会の英語セッション、世界看護科学学会（WANS）および東アジア看護研究者フォーラム（EAFONS）等において、若手研究者（大学院生含む）の発表促進を図るためのセミナーを開催する。
- ・WANS 事務局として 2022 年度に開催する第 7 回 WANS 学術集会（予定）の開催を支援する。WANS 会員の拡大を図り、ホームページの充実、維持管理を行う。

##### 2. 国外研究活動の推進

- ・第 41 回学術集会 で委員会主催のセミナーを開催する。  
内容は、国外の研究活動（研究・ガイドライン策定など）経験者からの講演、交流、ネットワーキングを企画予定。
- ・国際活動推進に関する会員のニーズ調査を実施する。

### 3. JANS ホームページ内「異文化看護データベース」

- ・継続しつつ、今後のあり方を引続き検討する。

### (9) 看護学学術用語検討委員会（安酸史子理事）

- ・委員会で検討した「セルフケア」の再定義案に対する専門家によるクリティーク結果を踏まえ、「セルフケア」の定義を改定する。
- ・上記の一連のシステム構築のための試行をもとに、今後の学術用語の継続的な維持管理システムの構築を行う。
- ・確定した維持管理システムに則って、既存の学術用語の改定と追加用語の計画立案を行う。

### (10) 社会貢献委員会（鈴木みずえ理事）

- ・第41回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。
- ・第41回学術集会で「市民公開講座」を開催する。

### (11) 広報委員会（田中マキ子理事）

- ・学会ホームページ（日本語・英語）の更新・管理・評価と改善を行う他、他委員会との連携による学会活動の広報活動を展開する。
- ・WANSに関連した広報（①WANS学術集会の広報、②WANS学術集会におけるJANSの広報）について検討する。
- ・学術集会に関する広報活動（①次回学術集会企画委員会と社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動、②学術集会の記録）を行う。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」において、表彰論文の紹介を行う。

### (12) 看護倫理検討委員会（樋之津淳子理事）

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

### (13) 利益相反委員会（鈴木みずえ理事）

- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。
- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。

#### **(14) 研究倫理審査委員会（岡谷恵子理事）**

- ・研究倫理の申請に対して、メール審査、委員会招集審査のいずれかを行う。
- ・その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

#### **(15) 災害看護支援委員会（永田智子理事）**

- ・看護系学会としての災害時活動内容について、日本看護系学会協議会の災害看護連携会議等に参加して情報収集を行い、災害時の活動内容について検討するとともに、必要時には情報発信等の活動を行う。

#### **(16) 若手研究者助成選考委員会（鈴木みずえ理事）**

- ・2021年度から募集を開始する予定の若手研究者助成の申請をとりまとめ、対象事業の選考を行い理事会に提出する。

#### **(17) 会則等委員会（石橋みゆき理事）**

1. 定款の一部改正と定款改正に伴う会則等の変更の必要性を検討する。
  - ・和文誌の筆者要件、学術集会への参加など正会員の権利について、定款改正を視野に入れた表現の検討を行う。
  - ・学会総会での議決の必要性について実施方法等を含め検討を行う。
2. その他、必要な規程等の見直しの必要性を検討する。

#### **(18) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子理事）**

- ・「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」の調査結果を英文・和文誌へ投稿する。
- ・調査結果に基づき必要な対策を関連委員会と協働で計画し実施する。

#### **(19) 総務委員会（永田智子理事）**

- ・入会審査を行う。
- ・会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービス（一斉メールの配信、学術集会・セミナー参加登録、Web 選挙等）の課題を把握し改善に努める。
- ・本会の目的を達成し、安定した事務所運営が可能な職員体制確立のため、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。
- ・各職員が現在の所掌業務に関するマニュアルを整備・見直しを行うよう促し、より一層

の事務所機能の安定化、効率化を図る。

- ・事務所職員と密接に連携して、事務所運営に関する課題発見を行うとともに、業務の改善が図られるよう職員のモチベーションの維持・向上に努める。
- ・事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。

## **(20) 選挙管理委員会（青木きよ子委員長）**

- ・理事候補者選挙結果より理事候補者名簿を作成し理事会へ提出する。
- ・次期選挙管理委員会への申し送り事項を整理する。

## **(21) 他機関との連携（石橋理事／永田理事）**

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 日本学術会議
- ③ 看護系学会等社会保険連合（看保連）

2021年度 収支予算書(案)  
2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

科 目	補足	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	500	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
②会費収入		101,750,000	101,300,000	450,000
正会員会費収入	※1	101,500,000	101,000,000	500,000
賛助会員会費収入	※2	250,000	300,000	△ 50,000
③学会誌収入		1,494,000	1,133,000	361,000
学会誌販売収入		456,000	429,000	27,000
著作権料収入	※3	738,000	704,000	34,000
その他学会誌収入	※4	300,000	0	300,000
④寄附金・助成金収入(学術集会含まず)	※5	0	250,000	△ 250,000
⑤セミナー収入		3,065,000	4,000,000	△ 935,000
JANSセミナー	※6	1,935,000	2,870,000	△ 935,000
JJNSセミナー	※7	1,130,000	1,130,000	0
⑥雑収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
⑦学術集会収入		54,315,000	38,617,000	15,698,000
学術集会参加費収入		45,000,000	34,500,000	10,500,000
事前登録会員(11,000円)		17,600,000	27,500,000	△ 9,900,000
事前登録非会員(14,000円税込)		11,200,000	7,000,000	4,200,000
事前登録学部生		0	0	0
当日登録会員(13,000円)		11,700,000	0	11,700,000
当日登録非会員(15,000円税込)		4,500,000	0	4,500,000
当日登録学部生		0	0	0
寄附金・助成金収入	※8	430,000	300,000	130,000
寄附金		30,000	300,000	△ 270,000
助成金		400,000	0	400,000
広告販売収入		8,885,000	3,817,000	5,068,000
企業展示出展料		5,962,000	660,000	5,302,000
広告掲載料		2,123,000	1,507,000	616,000
ランチョンセミナー		800,000	1,650,000	△ 850,000
懇親会収入		0	0	0
<b>事業活動収入合計(I a)</b>		<b>160,625,000</b>	<b>145,301,000</b>	<b>15,324,000</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		98,426,000	79,659,000	18,767,000
学会誌発行費支出		27,440,000	25,811,000	1,629,000
和文誌編集費支出	※9	8,640,000	7,191,000	1,449,000
英文誌編集費支出	※10	18,800,000	18,620,000	180,000
編集活動費支出		1,255,000	1,555,000	△ 300,000
和文誌編集委員会費支出	※11	315,000	710,000	△ 395,000
英文誌編集委員会費支出		940,000	845,000	95,000
看護学術振興費支出		6,695,000	7,879,000	△ 1,184,000
表彰論文選考委員会費支出		271,000	221,000	50,000
研究・学術推進委員会費支出	※11	465,000	860,000	△ 395,000
看護ケア開発・標準化委員会		2,970,000	3,000,000	△ 30,000
若手研究者活動推進委員会費支出	※11	487,000	818,000	△ 331,000
国際活動推進委員会費支出	※11	700,000	1,030,000	△ 330,000
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		400,000	400,000	0
看護学学術用語検討委員会費支出		767,000	815,000	△ 48,000
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
災害看護支援委員会支出	※11	100,000	200,000	△ 100,000
研究学術活動支援費支出		7,332,000	4,442,000	2,890,000
受賞論文表彰費支出	※12	1,193,000	193,000	1,000,000
若手研究者助成金支出	※13	3,000,000	0	3,000,000
若手研究者助成選考委員会		100,000	150,000	△ 50,000
研究倫理審査委員会費		94,000	99,000	△ 5,000
JANSセミナー開催費	※14	1,815,000	2,870,000	△ 1,055,000
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
社会的活動費支出		1,510,000	1,336,000	174,000
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		705,000	651,000	54,000
広報委員会費支出(公益目的事業分)	※15	805,000	685,000	120,000

科 目	補足	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異
学術集会費支出		54,194,000	38,636,000	15,558,000
当年度開催学術集会	※16	51,378,000	35,699,000	15,679,000
会場費支出		23,794,000	500,000	23,294,000
会議費支出		1,079,000	650,000	429,000
旅費交通費支出		892,000	1,000,000	△ 108,000
消耗品費支出		4,420,000	1,000,000	3,420,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,792,000	1,600,000	192,000
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		4,173,000	4,000,000	173,000
委託費支出		11,857,000	19,500,000	△ 7,643,000
人件費支出		240,000	1,000,000	△ 760,000
謝金支出		1,040,000	2,000,000	△ 960,000
雑支出		2,091,000	4,449,000	△ 2,358,000
懇親会運営費支出		0	0	0
次年度開催学術集会(準備期間)	※17	2,816,000	2,937,000	△ 121,000
会場費支出		0	0	0
会議費支出		100,000	120,000	△ 20,000
旅費交通費支出		400,000	300,000	100,000
消耗品費支出		360,000	236,000	124,000
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		856,000	1,580,000	△ 724,000
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		600,000	301,000	299,000
委託費支出		300,000	400,000	△ 100,000
人件費支出		200,000	0	200,000
謝金支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		59,786,000	61,577,000	△ 1,791,000
給料手当支出	※18	24,770,000	24,210,000	560,000
福利厚生費支出		4,350,000	4,200,000	150,000
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※19	500,000	867,000	△ 367,000
社員総会費	※20	4,665,000	4,795,000	△ 130,000
理事会費	※21	2,978,000	3,228,000	△ 250,000
委託費支出	※22	6,725,000	8,476,000	△ 1,751,000
人件費支出		50,000	0	50,000
渉外費支出		20,000	20,000	0
旅費交通費支出	※23	330,000	30,000	300,000
通信運搬費支出	※24	2,190,000	1,886,000	304,000
消耗品費支出		1,200,000	1,250,000	△ 50,000
印刷製本費支出		62,000	9,000	53,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		737,000	738,000	△ 1,000
賃借料支出	※25	4,283,000	4,775,000	△ 492,000
保険料支出		84,000	85,000	△ 1,000
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		650,000	650,000	0
負担金支出		430,000	380,000	50,000
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		2,460,000	2,374,000	86,000
総務費支出		942,000	1,244,000	△ 302,000
総務委員会費支出		20,000	10,000	10,000
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)	(※15)	20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		700,000	700,000	0
選挙費用支出	※26	93,000	405,000	△ 312,000
③その他支出		2,200,000	2,000,000	200,000
資格喪失者会費支出	※27	2,200,000	2,000,000	200,000
事業活動支出合計(I b)		160,412,000	143,236,000	17,176,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)		213,000	2,065,000	△ 1,852,000

科 目	補足	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>				
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）	※28	93,000	405,000	△ 312,000
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
若手研究者助成資金取崩	※29	3,000,000	0	3,000,000
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		0	110,000	△ 110,000
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>		<b>3,393,000</b>	<b>815,000</b>	<b>2,578,000</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金	※30	1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立		950,000	870,000	80,000
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）	※31	110,000	0	110,000
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>		<b>2,060,000</b>	<b>1,870,000</b>	<b>190,000</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>		<b>1,333,000</b>	<b>△ 1,055,000</b>	<b>2,388,000</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）	※32	527,000	527,000	0
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>		<b>△ 527,000</b>	<b>△ 527,000</b>	<b>0</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>		<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>19,000</b>	<b>△ 517,000</b>	<b>536,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>		<b>113,336,000</b>	<b>113,853,000</b>	<b>△ 517,000</b>
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>113,355,000</b>	<b>113,336,000</b>	<b>19,000</b>

- ※1 2021年4月1日時点での会員数を9,900名、新入会者・再入会者750名、資格喪失者500名と見積もり、合計10,150名分を会費収入として計上。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会(2口)、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版(各1口)。賛助会費1口5万円。2019年度に(有)ヌーヴェルヒロカワ退会。
- ※3 和文誌・英文誌の著作権料。
- ※4 和文誌(会員外の共著者投稿料)、英文誌(会員外の超過ページ課金)。
- ※5 寄附金ではなく、英文誌編集費の請求金額から直接値引きに変更されている。
- ※6 第18回JANSセミナー参加費収入(133.5万円)、第19回JANSセミナーの参加費収入(60万円)。
- ※7 2021年度JANSセミナー参加費収入(113万円)。
- ※8 第41回学術集会の収入。参加費、寄附金、協賛金など。
- ※9 2020年度実績による投稿論文の増加に代わり、会員外の共著及び、迅速査読の導入により投稿論文の更なる増加と編集作業の増加が見込まれるため増額している。
- ※10 2020年度予算との差額は、英文誌編集費の値引(25万円)、英文誌編集長の契約の見直しに伴う報酬の増額(40万円)、外国税支出(3万円)による。
- ※11 WEB会議の活用により旅費交通費を減額している。
- ※12 学術集会演題表彰にかかる費用として100万円を増額している。
- ※13 2021年度より始める助成金事業費。「若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成」と「若手研究者が海外留学するための助成」の二つの助成事業がある。
- ※14 第18回JANSセミナー(124.5万円)、第19回JANSセミナー(57万円)の開催費用。
- ※15 【広報委員会の活動費のうち、公益目的事業に関わる費用を事業費に計上している。(学術集会会期中の写真撮影費、市民公開講座のフライヤー制作費など)。(会議費)は管理費に計上している。】  
パネルスタンド作成費用を増額している。
- ※16 第41回学術集会に関わる開催年度の費用。(開催地：名古屋)
- ※17 第42回学術集会に関わる開催前年度の費用。(開催地：広島)
- ※18 正職員5名、パート2名(週1～3日勤務)の給与・賞とおよび、社会保険料、健康診断料など。
- ※19 学会総会1回開催(12月名古屋/貸し会議室利用)
- ※20 社員総会2回開催(6月東京・12月名古屋/貸し会議室使用)
- ※21 理事会7回開催(5月、6月、7月臨時、9月、10月、12月、2月/うち6月・12月は貸し会議室使用)。
- ※22 前年との差額は英文ホームページのリニューアル費用。  
【法人として必要】  
会計事務所(122万円)＜会計顧問料(78万)、内閣府提出書類作成料(11万)、社会保険労務士(33万円)＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(40万円)、司法書士(10万円)  
【学会事業に直接必要】  
会員管理システム利用料(266万円)＜基本利用料(112万)、会費コンビニ決済機能(27万)、学術集会参加登録・行事管理機能(79万)、クレジット決済機能(33万円)、アンケート機能(15万)＞、JANSホームページ年間維持更新管理料(137万円)、翻訳費用(14万円)、WEB会議システムZoom(13万円)、封入委託費(13万円)  
【事務所運営費】  
事務所警備委託費(21万円)
- ※23 事務所職員の出張(名古屋)に伴う交通費(5名分)。通勤費は「通勤手当」費目にて別途計上。
- ※24 理事、委員、査読委員の交代に伴う委嘱状送付、および挨拶状の送付により増額している。

- ※25 事務所賃借料、コピー機リース料、紙折り機リース料。前年はペーパーレス会議用機器のリース契約を計画していたが取りやめたため減額している。
- ※26 委員会開催(1回)の費用。(新理事名簿作成など)
- ※27 活動経費支出ではないが、会費の未納により収入が減少するため費用に計上している。正味財産増減計算書にも表示される。
- ※28 選挙積立金から取り崩して選挙費用(※26)に充当する。
- ※29 若手研究者助成資金から取り崩して若手研究者助成金支出(※13)に充当する。
- ※30 選挙費用に充当するための積立金。2022年度の役員選挙・代議員選挙に充当する金額を毎年積立てる。
- ※31 事務所契約更新料(賃借料)のうち発生主義の原則に基づき翌々年分を「長期前払費用」として繰延べている。
- ※32 複合機のリース債務を計上している。





科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
学会総会費										500,000	500,000
社員総会費										4,665,000	4,665,000
理事会費										2,978,000	2,978,000
会議費										44,000	44,000
旅費交通費										374,060	374,060
消耗品費										469,309	469,309
通信運搬費										906,488	906,488
印刷製本費										24,248	24,248
委託費										2,630,084	2,630,084
諸謝金										650,000	650,000
雑費										965,083	965,083
賃借料										1,675,041	1,675,041
租税公課										14,341	14,341
通勤手当										746,983	746,983
退職給付費用										391,090	391,090
福利厚生費										1,701,244	1,701,244
光熱水料費										288,234	288,234
修繕費										19,555	19,555
火災保険料										32,852	32,852
減価償却費										218,699	218,699
渉外費										20,000	20,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										430,000	430,000
給料手当（委員会等人件費含む）										9,737,315	9,737,315
<b>経常費用計</b>	24,099,801	36,179,964	65,798,876	2,132,948		128,211,589	1,300,508	415,390	1,715,898	29,531,626	159,459,113
<b>当期経常増減額</b>	△ 22,164,801	△ 33,555,964	△ 20,368,876	△ 2,132,948	51,000,000	△ 27,222,589	7,584,492	△ 415,390	7,169,102	21,219,374	1,165,887
<b>2. 経常外増減の部</b>											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
<b>当期経常外増減額</b>											
他会計振替額					7,288,895	7,288,895	△ 7,288,895	0	△ 7,288,895		
<b>税引前当期一般正味財産増減額</b>	△ 22,164,801	△ 33,555,964	△ 20,368,876	△ 2,132,948	58,288,895	△ 19,933,694	295,597	△ 415,390	△ 119,793	21,219,374	1,165,887
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
<b>当期一般正味財産増減額</b>	△ 22,164,801	△ 33,555,964	△ 20,368,876	△ 2,132,948	58,288,895	△ 19,933,694	225,597	△ 415,390	△ 189,793	21,219,374	1,095,887

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

第5号議案

第43回日本看護科学学会学術集会会長の承認

- ・第43回（2023年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

田中 マキ子（山口県立大学）

「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の  
研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」報告

資料：[結果速報 2020.09.11](#)（WEB ページをご参照ください）